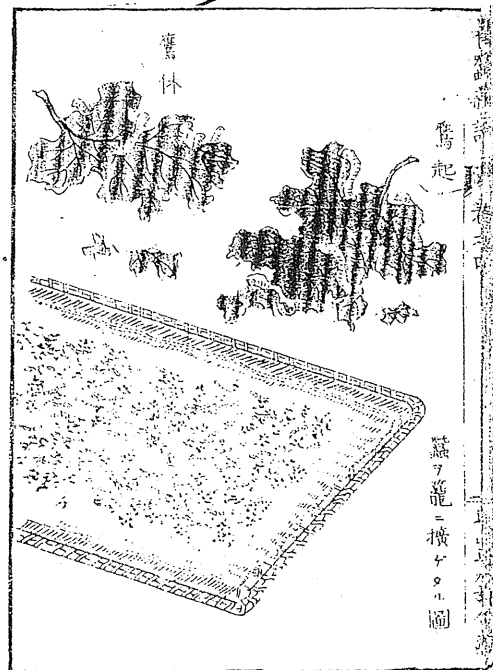
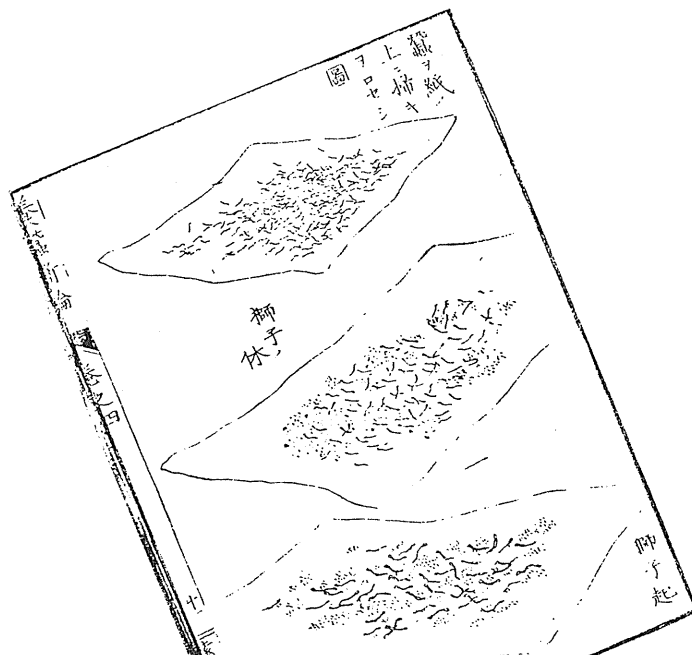


閲覧 ニ ュ ー ス

74 号

1994.12



「養蚕新論」卷之四より 明治5年(1872)出版

真の英知と教養

立 崎 栄 一

「悪性の腫瘍のようですから、早く切った方が良いでしょう。」「悪性腫瘍というと、いわゆるガンですか?」「そうです、早期ガンですからその部分を切りとれば治ります。早い方が良いでしょうからすぐに入院手続きをして下さい。」数ヶ月前から続いている胃痛を気にしながらも、市販の胃薬等で凌いでいたが、2月16日に内視鏡検査をやった結果の診断は、まさに青天の霹靂であった。

平成6年3月3日に胃癌の宣告をうけ、4月8日に胃の全摘切除手術（脾臓及び周辺のリンパ節も）を無事に終えて、その二週間後に退院し、5月6日から平常勤務に戻った。それ以後は、順調に経過しているものと考えられるが、日々、“ガンと向き合い余生を拓く”思いで、活動エネルギーの補給の為、吸収効率の良い食事内容と摂取法の試行錯誤的模式をしながら、いのちを育てる難しさを実感しているこの頃である。

身体の正常な発達とその維持増進の為に、運動と栄養の重要性を説き、常に、自分の健康や体力維持に留意し、実践してきたつもりであったが、病院嫌い（医者要らずの信念）の頑固な性格が、人間ドックの検診や内視鏡検査等を敬遠し、多少の痛みや不調も、自己診断による対症療法で適当に処置してきたことが、大事を招く結果となったようで、反省と慙愧の念、頻りである。

胃の無い消化器系の消化吸収能力は、著しく減退したらしく、一日の食事の総摂取量は、ほぼ手術前の量に近くなったと思われる現在でも、体重は減少傾向にあり、退院時の55kg（1年前は63kg）から、6ヶ月の間に5kg余も減っていることは、とても気になることで

ある。

人体における消化器系のメカニズムや、栄養のバランスの必要なことは、十分に理解していた筈であったが、このような異常な事態（食道から直接空腸に入る食物の消化吸収の特殊な状態）における食物の内容や食べ方については全く応用ができず、常に試行錯誤の結果に頼るのみであって、単なる知識の蓄積だけでは、問題解決に役立たず、真の英知の重要性を痛感している昨今である。

さて、昭和43年に、多大の期待と希望いっぱいに創設されたわが教養部は、専門教育の一環としての教養教育の実効化をはかる為に、平成6年度限りで、27年間の歴史を閉じて、教育センターに改組されることになり、目下、その方向で新しい組織、運営の具体策の検討が行われている。

昭和24年にスタートした新しい制度（性格）の大学は、それまでの「国家に須要なる学術の蘊奥を攻究する」目的をもった旧制大学から、「広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」ことに目的を広げたものであり、学術研究、職能および市民的教養を培う全人教育の場としての、新しい役割をもつ高等教育機関である。

本学も、このような新しい大学の目的に賛同して、昭和37年に衛生学部二学科で発足し、その後、薬学部（昭和39年）、畜産学部（昭和41年）を増設して、理科系総合大学をめざし、その基盤として、昭和43年に相模原キャンパスに教養部を設立したが、自由にのびのびとした教育によって、北里に学ぶ誇りと連帯感を育てることをねらいとして、新設の私立大

学としては、画期的な教育体制でスタートしたことは、本学の大きな決断であり快挙であった。

大学における卒業必要単位数(124単位)の約37%(48単位)を占める教養科目の大部分(42~44単位)を1年次で履修させ、2年次以降の3年間で専門教育に充てることによって、国立大学や多くの私立大学にみられない専門課程の効率的教育を可能とし、また1年次の教育を教養部の主体性に委ねて、自由な発想による新しい試みを積極的に実施することによって、真の英知としての教養を啓発することを期待したのである。

このような、大学の高邁な理想と希望に充ちた大英断と理解のもとに、教養部は、この使命の達成に向けて全教員の情熱と英知を傾注して、新入生が大学人・北里人として、また有為な社会人としての基礎的教養(思考力、総合的判断力、応用力、問題解決力など)を啓発できるよう、総合講座、教養ゼミ、課外講座などの新しい教育形態、内容を取り入れ、また、懇和会、クラス制度を強化し、きめ細かい指導によって、一年次生の望ましい方向づけや、学部を超えた人間的交流や視野の拡大などに貢献してきたものと考えられる。このような実績は、各学部の理解と期待に応えるべく、教養部教員が一致協力して教育の改善充実に取り組み、効果的实施に努力したたまものであり、貴重な財産である。

しかしながら、専門教育の内容の飛躍的進歩と拡大による複雑化、高度化、先鋭化が進むにつれて、専門教育の充実強化が必要となり、教養教育を専門の基礎的なものと狭く限定して考える姿勢が強くなって、次第に教養部の教育方針に対する疑問や不満となつてあらわれ、さらに、学部、学科の増設(医学部、水産学部、畜産土木工学科、生物科学科、看護学部)によって、学生数の増大と質の多様

化、ならびに専門領域の多彩な拡大が進み、各学部の教養教育に対する要望や期待にかなりの差異がみられ、これらの全てに対応できない状況になりつゝ、あったことは否めないことである。

高度文明の発達した現代社会においては、科学技術の進歩、産業構造や生活様式の変化、価値観の多様化などによって、生活の合理性、快適性のみが強くなり求められ、利己的个人主義が強くなりこっている。また、人間相互の関係は、ますます疎遠、希薄となり、生活の快適性、利便性に密着した使い捨ての消費生活と大企業の利益中心主義は、環境破壊や公害、資源の枯渇を急速に進行させ、地球や人類の未来に危険信号を点滅させている。

本学は、生命科学の教育、研究を中心とする理科系総合大学として、これまで学問や社会の発展に大きく貢献してきたが、これからの相互依存的国際社会では、グローバルな視点で人類の発展を総合的にとらえ、その中で、諸々の科学や技術、および人間の存在や思想と自然環境などとの有機的関連性を考えて行動できる英知の人が必要であり、このような人材を育てることが大学の基本的使命であり、社会に対する責任でもある。

胃全摘の吾が身が、手術前の健康状態に戻るか否かについては、その適切な方法も不明であつて、本当に難しい課題であるが、教養部廃止後のセンター制を中心とする一般教養教育の組織が、教養部が育てて来た諸々の貴重な教育実績を、どのように受け継ぎ、より効果的な教育を展開できるかということは、大学の真価が問われる将来の発展につながる非常に重要な課題であると考えられる。

生き生きと人間らしく生きる能力と喜びを大事に育てる為には、英知としての真の教養が、大学にとっても、個人にとっても極めて重要なことである。英知もて行かん哉!

(前教養部長・体育)

日本映画派宣言

金 勝 一 樹

街を歩くとコンビニエンスストアとともに目につくのがレンタルビデオ店だ。教養部図書館にも多くのビデオソフトが並び、ビデオ鑑賞は手軽に楽しめる娯楽の一つとなった。「あの金勝がビデオの事を書くのか？ それじゃあ H ビデオの話に決まってる。」そうお考えの諸氏も多いかも知れないが、それは誤解だ。しかしそのように誤解している方々の期待にチョッピリ応えてしまおうか。

私の学生時代の友人 K 君（イニシャルは同じだが私本人ではない）は、数々の困難と危険(?)を乗り越えてその手のビデオを集めていた。しかし K 君が結婚することになった時、コレクションをそっくり友人の W 君に渡したそうだ。また W 君が結婚するときは S 君に引き継がれ、その後は仲間や後輩へとわたり、今では行方不明になってしまったそうである。「私のコレクションはいったいどうなってしまったのだろうか？ あの黄金のラインアップは伝説的な名作ぞろいで、今だって刺激的だぜ。」としみじみと語る K 君（あくまでも私本人ではなく私の友人である）の顔が実に印象的であった。そんなに貴重なコレクションなら、教養図書館への寄贈の話を、私が仲介してやればよかったと思ってしまった。寛大な手塚図書館長なら、よくよくご説明申し上げればきっと受け入れて下さる……訳はないでしょうね。

さてさて、かなり話はずれてしまったが本題に戻そう。レンタルビデオ店を利用する人が借りるソフトの多くは、何といても映画で、それも圧倒的に洋画であろう。ところが

私は洋画よりも日本映画を選んで観るようにしている。というのは、風俗習慣の異なる国の作品を100%楽しむことは困難だと考えるからである。特にコメディ作品の場合には、アメリカ人なら笑える場面でも、何がおかしいのかさえも解からないことが結構ある。また、私は聞き慣れない洋画の登場人物の名前を覚えきれないことがよくある。つい5分前まで観ていたヒーローの名前すら怪しいこともある。これでは、犯人あてが醍醐味の推理物は、観ていてパニックになってしまう。しかし実際は、おもしろそうだと思って借りてきた日本映画には失望することの連続で、感動するのは妻が借りてきた洋画を観たときである。それでも私が日本映画にこだわるのは、私という人間自身が日本映画によって育てられたからなのである。このように書くとしてもカッコよく聞こえるが、実は、私の父が日本の某映画会社に勤めていたので、我家は日本映画の売上でおまんまが食べられ、文字どおり「私は日本映画によって育てられた」のである。だから、普通の人よりは日本映画を応援し、日本映画に期待しているのである。私がこれまでに観た作品の中で、洋画ファンにもお薦めなのは、野村芳太郎監督作品の「砂の器」だ。松本清張原作で文句なく感動していただけると思うので一度は観ていただきたい。また、失恋して落ちこんでいるときなどは、バリバリのヤクザ映画を観て、赤ちょうちんで塩豆をつまみに飲むとすぐに回復する。ぜひ試していただきたい。とは言え、多くの方々に日本映画を観ていただくためには、日

本の映画人にもっと努力してもらわなければならないのは言うまでもない。もともと日本映画は、身近な日本人が演じているので、SF作品や現実離れた内容よりは、「どこにでもあるような話」の方が人々に受け入れられ易いと思う。しかしながら「どこにでもあるような話」というのは超大作になりにくいので、映画にするのは極めて難しいのだ。これができる映画人は、現在では山田洋次監督ぐらいであろうか。山田監督の代表作はご存じ「寅さんシリーズ」である。「何だ、あのマンネリの」とバカにする方も多かもしれない。しかし、毎年お正月とお盆に上映された「寅さんシリーズ」は、安定した興業成績を残し、他の赤字作品をカバーし、映画会社1年間の活動を支えていたのは事実である。山田監督の作品は、観ている人を不快にするような、人を騙したり、殺したりといった場面がなく、本当に安心して観ていることができる。これは「寅さん」だけでなく、「幸福の黄色いハンカチ」から最近の「学校」まで共通していることだと思う。山田監督は日本人なら誰の心の中にもある「良い部分」だけをとりあげ、上手につなげて、しかも独特のユーモアを交えて映画にしているのだ。この才能は、ヒッチコックやスピルバーグにも負けない日本映画の貴重な財産だと思う。

日本映画派宣言などとタイトルに書いてしまったが、最近では日本映画よりもディズニーやセーラームーンといった娘のビデオばかり借りてきては夢中になっている。そもそも映画は、ビデオではなく大スクリーンの映画館の最前列で、首を上下左右に動かしながら観るのが正しい作法である。そうだ、たまには仕事をさぼって、映画館に行ってみようかな。

(生物)

後期試験に備えて

1) 開館延長

1月14日、21日の両土曜日は、午後3時まで開館します。

どうぞご利用ください。

2) 研修室の開放

3階研修室を下記の期間開放します。

期間 1月14日(土)～1月31日(火)

3) 一部図書の貸出期限変更について

試験期になると、一部の図書に利用が集中しがちです。このため、予約の多いものに限り、一日、三日貸出しの措置をとることがありますのでご了承下さい。

閲覧証を受け取っていない人へ

4月に交付しました閲覧証をまだ受け取りにきていない人がかなりいます。

来春、それぞれの学部に進学しても各図書館で必要なものです。後期試験ももうすぐです。早目にメインカウンターにきてください。

複写機利用方法について

教養図書館では、複写サービスをプリペイドカード方式により行っております。

このカードは、相模原キャンパス内の図書館ならどこでも利用できます。尚、販売は、各図書館カウンターで行っております。

<共通プリペイドカード料金>

コピー 35枚分	500円
70枚分	1,000円
350枚分	5,000円

奥井 一 満

「カイコがなぜ逃げ出さないか、それをやりなさい」、恐る恐る卒論のテーマを相談に Y 教授を訪ねたら、唯一言、そう言われたただけだった。当時、Y 教授は日本の昆虫学界の長老だった。大抵の動物はヘビでもクモでも平気だったがイモムシだけは苦手で、手で触われぬ私は最初、このテーマが何のことか判らなかった。しかし、よく考えてみるとカイコを飼う時、箱でも籠でも蓋はしない。確かに逃げない虫である。飼い主から離れた野良犬、野良猫はいるが、野良カイコの話は聞かない。野蚕と呼ばれる別種はいるがこれは逃げて野生化したカイコではない。つまり、逃げ出さぬ程に飼育化が進んでいたのである。これは決してカイコの本性ではない。人間の手で改良された結果なのだ。Y 教授のテーマは、カイコの原点にある性質を見出せと言うことだったのだ。それから十年程このどうしようもない程、野生を失った虫とのつき合いが続いた。そしてこの虫の行動を調べるうちに、長い養蚕の歴史を知る必要を感じた。その結果、有史以来、人が養蚕を続けていることを知りカイコに纏わる様々に興味を持った。カイコは孵化後 4 回脱皮し 5 令で繭になる。これを古くから獅子の休み、鷹の休み、船の休み、庭の休みと言う。これは中国のある時代、継母に虐められた美しい姫が最初、獅子吼山に捨てられるが獅子が連れ戻り、次に鷹群山に捨てると鷹が戻し、海へ流すと漁夫が船で送り届けた、最後は怒って庭に埋め殺したと

ころ金色の光が出、姫が無事であったので桑の木舟に寄せ流したところ日本国常陸豊良湊に漂着し、その霊がカイコになったと言う伝説からとったそう。脱皮期は一日休んで次の令に入る。それを眠(休み)、起き、と言う。明治 5 年出版の田嶋邦寧著『養蚕新論』は一般の養蚕書だが、処々、新知見を加えたと言え江戸の雰囲気を残している。5 年に出版され明治 8 年版権免許とある奥付は、近代国家に至る様相を示して面白い。

(行動学)

冬休み中のお知らせ

冬期休暇中の貸出、閉館日等については下記のとおりです。

- 1) 長期貸出 12月12日(月)～
’95年 1月10日(火)
冊数制限はありません。
(但し、雑誌は対象外です。)
- 2) 開館時間 12月17日(土)～12月24日(土)
1月 5日(木)～1月 7日(土)
平 日 9時～17時
土曜日 9時～13時
1月 9日(月)～
平 日 9時～19時
土曜日 9時～13時
- 3) 閉 館 12月26日(月)～1月 4日(木)

閲覧ニュース74号

1994.12発行

北里大学教養図書館

〒228 相模原市北里 1-15-1

発行責任者 手塚 甫

電話 (0427) 78-8005